

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

花壇から寄せ植えまで冬の定番植物！ パンジー・ビオラ

パンジー・ビオラは、ヨーロッパに自生する野生種から育種され、大輪のものをパンジー、小輪のものをビオラと呼ぶことが多いですが、どちらもスミレ科スミレ属の花で、違いはほとんどありません。

秋から春まで長期間咲く品種が多く、冬のガーデニングにはなくてはならない存在で、10月になるとポット苗が並ぶようになりますが、気温の高い時期から育てると徒長したり、蒸れたりするため、10月下旬から11月になってから購入して植え付けるのが良いでしょう。



栽培環境

植え付けは、日当たりが良く、風通しの良い場所を選びます。冬季は寒風が当たるような場所に置くと、葉が紫に変色してしまう場合もありますので避けましょう。水はけのよい土壌を好むので、硬い土の場合は、腐葉土や堆肥などの有機物を十分にすき込んでおきます。11月頃に植え付けると長く楽しむことができます。

水やり

乾燥した環境を好むので、12月以降の低温が続く頃になると水やりはあまり要りません。庭植えの場合は、植え付け後にたっぷりを与えたら、その後はほとんど必要ないでしょう。鉢植えの場合は、表土が良く乾いたら鉢底から水が流れ出るくらいたっぷり水やりします。過湿になると根腐れの原因になることがあるので注意しましょう。冬は気温が上がり始めた午前中に行います（夕方は水が凍ってしまい根を傷つけて枯らす場合があります）。

肥料

培養土にはあらかじめ緩効性化学肥料（IB化成S1号など）を、花壇の場合は100g/m²、プランターの場合は3g/Lを元肥として混ぜておきます。その後、冬の間に花が次々に咲いてくるような場合は、月に1回化成肥料（N:P:K=8-8-8）をふりかけるか、液肥を1000倍に薄め、月に3~4回ほど水やり時に施肥します。

花がら摘み

終わった花をこまめに摘んであげることで、たくさんの花が咲き、長い期間楽しむことができます。

病害虫

葉がいつまでも乾かないと灰色かび病になることがありますので、水やりは午前中に行き、夜まで葉が濡れていない状態にしましょう。暖かくなり苗が弱気味になるとアブラムシがつくことがあります。花がらをこまめに摘み取り、葉っぱが密集してきたら少し風通しを良くします。

花が終わってからの管理

- 葉 パンジーは花期が長いので、葉柄が伸びやすく倒伏することが良くあります。そのため、伸びてしまった葉は、根元からひねるように摘み取ります。傷んだ葉も同様の方法で摘み取ります。また、全体が伸びてしまった場合は、上部から1/3~1/2ほどを切ります。
- 花 花は咲かせたままにしておくと、実（種）をつけます。実をつけると栄養がそこに集中してしまうので、見た目が悪くなるだけでなく、病気にもかかりやすくなります。花がしおれたら、花がら摘みを定期的に行います。花も葉と同様に根元からひねるように摘み取ります。

種から育てる

たくさん育てたい人は種まきから育ててみましょう。その場合、8月の半ばに種まきをすれば、年内に花を楽しむでしょう。発芽温度は20℃前後です。まだ暑さが厳しい時期なので、涼しい木陰で発芽させてから日向に移動します。秋にまくと開花は翌春からになります。少し管理が難しいので、一般的には秋に出回る苗を購入して育てましょう。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC（タック）までご連絡ください。